

関戸橋

鎌倉街道が多摩川を渡る関戸橋は、旧橋（中河原から関戸方向）と新橋（関戸から中河原方向）によって、各々2車線ずつが通れるようになっています。旧橋は昭和12年（1937年）、新橋は昭和46年（1971年）に完成しました。

昭和12年に完成した旧橋は架橋後80年近く経過しており、老朽化に伴う諸課題を解決するため、架け替えが必要となり、平成28年1月から関戸橋の架け替え工事（旧橋撤去・新設）が始まっています。架け替え終了まで約16年間を見込んでいるとのこと。



平成30年度には新橋下流側の仮橋が使用開始となり、平成30～32年度で旧橋の撤去が予定されています。

1 旧橋の特徴

- 関戸橋の旧橋と同じ形式（コンクリート橋（カンチレバー型））では、
- ・戦前に架けられたこの形式で現存するものとしては、島根県の神立橋に次いで国内第二位の橋長、
 - ・国内最大の支間長の橋である。デザイン面でも橋脚毎にバルコニーを持つ優美な橋である。
 - ・戦前の橋でバルコニーを持つものは、国内でも数橋しか現存しない。

（出典：たましん地域文化財団 多摩のあゆみ 123号 「多摩の橋景色の移り変わり」 （東京都建設局 紅林章央））

2 貴重な関戸橋旧橋の移築保存

関戸橋旧橋が架け替え工事により撤去されることに当たり、前述したように全国的にも貴重な土木遺産である橋の姿を後世に残すことは、戦前の土木技術の高さや、古来から鎌倉街道を通る人々が多摩川を渡ってきた歴史の一端を後世に伝えることとなり、また、この橋は、関戸（中河原）の渡しに代わり、初めて架橋された鉄筋コンクリート橋です。

そこで、当社としてもバルコニーを含む欄干など、旧関戸橋の一部をモニュメント等にして移築・保存することは、鎌倉街道の多摩川渡河の記録として、また、日本の土木遺産の一つとして必要と考え、関係機関への働きかけを地域の皆さんと一緒に行いました。

その結果、令和元年（2019年）7月、中河原公園入り口付近に旧関戸橋の欄干と橋名柱、説明板が設置されました。

